

令和4年度 第2回 学校運営協議会記録

1 日 時 令和4年10月20日(木) 午前9時30分から11時30分

2 場 所 沼津特別支援学校 会議室

3 出席者

(1) 学校運営協議委員

村本 幸雄 様 (元特別支援学校長)

池谷 修 様 (障害者支援施設沼津のぞみの里施設長)

越膳 徹 様 (有限会社イーリード社長)

草谷 修一 様 (沼特PTA会長)

杉山 真里 様 (沼津市児童発達センターみゆき所長)

芹澤 和代 様 (社会福祉法人長泉町社会福祉協議会会長)

梶浦 寛美 様 (清水町健幸づくり課主任)

(2) 本校教職員

校 長 青木 暁乃 副校長 所 康俊 教 頭 大石 真未

事務長 高木 伸明 小学部主事 井上みづほ 中学部主事 齋藤 夕紀

高等部主事 田代 美紀 教務課長 山本 愛花

4 内容

(1) 開会

(2) 校長挨拶

- ・外壁工事で校内が暗くなっているが、表情は明るく取り組んでいきたい。
- ・1学期末はコロナ感染が多数あったが、夏休み明けからは落ち着いている。
- ・十分に感染対策を行い、学部学年の実情に合わせて修学旅行や学校外へ出る学習を行っている。
- ・支援学級や通常学級の先生に特別支援学校の特色を知ってもらいたい。相互に歩み寄り、不登校の生徒など受け入れの枠組みを作っていけるとよい。

(3) 報告

ア 研修会報告「学校運営協議会とは」

<副校長から>

資料：学校・家庭・地域の連携推進研修会

コミュニティ・スクールと地域学校共同活動の一体的推進

(静岡県教育委員会)

・学校運営協議会の目的

委員が一定の権限をもって学校運営に参画し、目標やビジョンを共有して社会総がかりで子供たちの健全育成や学校運営の改善を行う

・学校評議員制度との違い

学校評議員会：委員から意見をもらい、学校がその意見を取り入れて改善する。
学校運営協議会：学校の課題について話し合い、協議していただく。子どもたちをどのように育てていきたいかを共有する。

・富士市立富士見台小学校の事例紹介

・学校運営委員の皆様には、地域と連携する軸になっていただき、開発、連携を強

めていていただきたい。子どもたちにふさわしい学習や体験がどのようにしたらできるか、子どもたちが地域とつながるという視点で協議会に参加していただきたい。

(質疑)

<委員から>

○運営協議会の目的に、“一定の権限をもって”とあるが、どの程度の権限があるか？

ー副校長からー

・学校運営や教職員の任用について教育委員会又は校長に意見を述べるができるということになる。

○知恵と経験を出し合って、教員と手を取り合っってより良い学校にしていくという見解で運営協議会を進めていきましょう。

イ 令和4年度学校経営計画にかかる前期の取組と評価・課題について

<副校長から> 資料：令和4年度学校経営計画書

資料を提示しながら前期の取組（主な部分）を説明

(安 全) 防災教育

(専 門) 12年間のつながり、個別の指導計画

(連 携) 共同学習（コロナ対策をして進めている）

前回の運営協議会で進路情報を保護者に分かりやすく提示するという意見をいただいたので、現在掲示を工夫するように進めている。

(チーム) 会議

⇒後期に向けて各課で進めることはもちろん、それぞれの課が協働して進めている。(例：各課でそれぞれ行っている訓練を、地震－搜索－救命まで一連の流れで行う。)

課題：関係機関以外に、どのようにして連携の対象を広げていくことができるか。また、多くの人に子どもたちを理解していただけているか。

<小学部から>

・防災訓練を積み重ねていることで、落ち着いて参加できるようになってきている。

・後期は交流が多くある。地域の方との交流をしていきたい。

・タブレットの使用も増えてきている。

・教員の指導力を向上させていきたい。

課題：公園や近隣のお店など地域へ出かけていくことは多いが、地域の方を学校に招いて講師となっただけ授業を行っていききたい。

<中学部から>

・子どもの成長を、子どもたち自身が感じている。

・地域へ出ていくことが多い。地域の方に、「植え方が上手になっているね。」と園

芸班の生徒を褒めていただいた。子どもたちは嬉しそうだった。地域の人にも育ててもらっているなど感じる。

- ・防災マスター という防災学習を行っている。自分を守る学習から、周りの人にも知ってもらうにはどうしたらよいかという学習に発展している。

課題：プロの方の演奏や表現を見聞きすると子どもたちの輝きが違う。地域の方と関わりながら学習を進めていきたい。（書道アートを行っているが、講師が県外の方なのでコロナで開催が難しくなっている現状がある。）

<高等部から>

- ・2、3年生は職場実習行うことができた。3年生は、2年生のときに実習ができなかったため、葛藤しながら自分の将来の道を見つけている。
- ・原地区探検をしたり、消防署の方に来ていただいて防災学習を行ったりして地域と関わっている。

課題：実技教科や作業学習などは専門的な知識が必要だが、足りていない。地域の方の協力を得ている作業班もあるが、そうでない場合は教員同士で学び合っている。また、地域での活動を増やしたり、活躍の場（作業製品の販売、紹介）を広げたりしたい。

ウ 前期取組・評価等に関する質疑・応答

<委員から>

○コロナ対策を行えば様々なことが行えるようにはなってきた。しかし、見学をしようとする人数制限が設けられてしまって多くの人に参加してもらえないということもある。例えば、学校に講師を招いて行った授業を録画して保護者に配信して見てもらうなどできるのではないか。

○心肺蘇生法の訓練はよく行うと思うが、大けがで血が大量に出ている、骨折をしている等に対応した訓練はあるか？

ー校長からー

- ・それぞれの学部でシチュエーションを決めた訓練を行っている。
- 学校の訓練はきれいな部分で終わってしまうことが多いと思う。ぞっとするような目を背けてしまいたくなるような場面も含めて訓練を行ったらどうか。そこから、止血のポイントや添え木の当て方などを学んでいく。

(4) 協議

ア 学校運営協議会としてできる支援について（グループワーク）

<協議テーマ>

学校運営協議会として、児童生徒に、地域等とどのような連携の機会を用意できるでしょうか。

（観点）

- ・地域の「人・もの・こと」とつながる…地域の資源を学校に
- ・顔の見える関係づくり…地域に出での交流、学校理解の促進

イ 後期の取組に向けての共有

(観点Ⅰ)地域の「人・もの・こと」とつながる…地域資源を学校に

Aグループ

- ・ボランティアで来てもらう→学校のことが分かってきた、慣れてきた→講師に
⇒学校に出入りするところから始める
- ・具体的な場面を学校が選択する→それぞれの特技を生かせる
- ・町や市にある事業や人事を活用する。
⇒東京電力の職業講話：子どもたちと対話させるプロジェクト（将来を考えられる）
夢講話（清水町）
- ・団体とつながる Win-Win の関係で 例：ライオンズクラブ、ロータリークラブ
⇒ボランティア意識の高い方はネタを探している。内容ややり方はお任せしてみる。人脈もあり、声を掛けてくれるかも。

Bグループ

- ・富士特のPTA 防災計画を見直した。
⇒個別の防災計画の作成の指導に、専門の防災士が学校に来て講演をしてくれる。
- ・長泉町は学校ボランティアコーディネーターが各学校に一人配置されている。
学校が要望を上げる→コーディネーターが人材を集め、学校に派遣するというシステムができています。民生委員やボランティア、シルバー人材センターなどの人材を活用している。
- ・沼津は社協と連携できるのではないかな？
- ・原地区エリアを中心にする。
- ・コンビニ店長、交通指導員の方に来てもらって話を聞く。地域にどんな人がいるか知る。顔見知りになることで声を掛けやすくなる。
- ・沼津市はA B 事業所が増えている。事業所に来てもらい、製品を見せてもらったり、一緒に製品作りを行ったりして、相互交流ができないか。

(観点Ⅱ)顔の見える関係づくり…地域に出での交流、学校理解の促進

Aグループ

- ・回覧板で学校のお知らせをする。そのなかに、ボランティアの募集を載せる。
- ・原町商工会では700事業所に渡る会報誌に無料で入れることもできる。
- ・教員も地域活動にどう理解を広めているか。地域の人として教員が出ていき、参加することで知ってもらう。
- ・防犯面で学校が閉鎖的。グラウンド、施設の開放をすると地域にこういう学校があるのだと知られる。まず、場所を知ってもらう。
- ・福祉まつり、バザー、障害者週間に役場に絵や作品を貼ってもらう。沼津市だけでなく清水町、長泉町にも地域を広げる。
- ・作品展示の場を広げる
⇒みらーとへの参加、リバーサイドホテル

Bグループ

- ・体育館等の貸し出し、空き教室で地域の人々の作品を展示、調理室の空いている日に使用してもらうなど、何かしら来てもらう機会をつくる。何気ない活動から行って

いく。

(グループワークを行って)

- 社会資源や地域を知り、核となれるように、人とつながっていききたい。
- 長泉町のシステムはよく分かっているが、沼津市がどうなっているのか。
 - ・陶芸の講師となりそうな方も紹介できる。
- 公立の発達支援センターなので、沼津市の市役所や保育士と会議をすることはあるが、このようないろいろな立場の方の意見を聞く機会はあまりない。制限がある中で、何かできることがあるのではないかと思う。
- グループは違うが、同様な意見が多くあった。PTA組織は学校と地域の間にある。学校では動けないことでも、PTAなら…ということがあるかもしれない。
- 協議の先にあるものは、地域で生活していく、社会の一員となるためにということ。どの辺りから働くことを意識していくのか、またそういった意識が芽生えてくるのか。中長期的な視点で考えていけるとよい。
- 学習指導要領の方向性に、どのように学ぶか、何を学ぶかということが書いてある。どこまで知識の詰め込みや技術を追い求めていくのか。幸せとは何か、ということも考えていく必要があるのではないか。
 - ・A型B型事業所や生活介護が増えてきた。店員割れしているところもある。事業所の方に学校に来てもらい、相互交流できたら良い。より良い支援ができるのではないか。
 - ・ボランティアコーディネーターのシステムは輝望会にも欲しい。
- 運営協議会とは、いろいろな立場の方が集まって意見を出し合い新しい物を生み出し、学校運営をより良いものとする場。大がかりなプロジェクトではなく、小さなつながりを積み重ねていく。

<校長から>

- ・校長、副校長、事務長のグループで協議では、地域に発信をするために、生徒会を中心に地域の依頼を受ける。そこから小学部や中学部、高等部でできることを振り分けていくということができるのではないかということをお話した。
- ・学校運営協議会は、年4回まで設けられることになっている。第3回の前に、期日を設け、学校参観という日にしてもらえれば。強制ではなく、詳細は案内を出す。

(5) 第3回学校運営協議会の予定

期日：令和5年2月2日（木）

内容：令和4年度学校評価及び令和5年度学校運営等

(6) 閉会